

# 行事の意義を考える 季節の行事「七五三」

第141号 2019年11月11日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢

## 11月の室礼



### 子ども達の成長過程を無事過ぎることのお祝いと、厄除けの行事

柿：「嘉来」の文字をあてて、「喜びが来たる」ように祈りを込めています。

千歳飴：紅白で祝儀と、「長く伸びる」という縁起を表しています。

神楽鈴：3段に分けて、小さな鈴を15(=3+5+7)個付け「七五三鈴」とも呼ばれています。鈴には神様を呼び寄せる霊力があることから、昔から子どもの履物や衣服、持ち物に鈴をつけ、子どもの無事を願う魔除けとしたようです。

紅白紐：お祝いの気持ちで紅白結びにしています。



---

## 七五三

---

今回もカグヤクルーの宮前さんに「室礼」について、インタビューを行いました。

奥山 今回は明治神宮にてインタビューをさせていただきますが、同じ新宿とは思えないような雰囲気ですね！

宮前 本当、場が澄んでいる感じがしますね！

奥山 ちょうど、七五三で参拝に来ているご家族がいましたね！

宮前 おじいちゃん、おばあちゃんも一緒でしたね。子ども用のスーツを着ている子もいましたが、私の時は美容院で着付けをして、帯がきつくて泣いた印象が強くある中でも、いつもと違うワクワク感も覚えています。

奥山 私も白と水色っぽい着物を着て、写真をいっぱい撮ってもらった記憶が残っています。

宮前 今は着物を着る機会も少なくなっているので、大事な機会ですね。

奥山 確かにそうですね、七五三で着物を着た以降、着たことないかもしれないです。成人式はスーツでしたし、大人になっても、子どもの頃に着たことを覚えているので大切な機会ですね。

宮前 思えば、赤ちゃんの誕生から七五三の行事までに色々なお祝いがある中で、私自身、最初の記憶に残る思い出は「七五三」だったような気がします。

奥山 言われてみたら、私もそうかもしれません。行事は幼心にも残っていますね。ところで、七五三はどういった行事なのでしょう？

宮前 そもそも七五三を調べてみると、室町時代に始まった「帯解きの義」（おびとぎのぎ）が起源で、子どもの成長の祝いとして、宮中や公家、武家で行われていた男女三歳の髪置、五歳になると、男の子に初めて袴を着せて碁盤の上に立たせる「袴着(はかまぎ)の祝」。七歳になると、女の子にそれまで帯の代わりに付けていた紐から、帯を初めて結ぶ「帯解(おびとぎ)の祝」と称したお祝いの儀式で、昔の行事の習慣が、七五三の原型になったと言われています。

奥山 そう言う謂われの行事だったんですね。



ご家族で参拝に来られていました！



明治神宮で千歳飴を購入！



榊：「神様の木」とも呼ばれ、魔よけの力があるとされる「麻」を結びます。  
紐：鱗文様は厄除けを表しています。  
グレープフルーツ：神様をお呼びする鈴に見立てて、柑橘類の「きつ」が「吉」に繋がり、大きいほど大吉と言われているようです。



熊手を持ったお爺さんと、箒を持ったお婆さん。

実は、こちらにも意味があります。おじいさんとおばあさんは、千歳飴の「千歳」の意味する長寿を体現し、箒は病や災難をはき捨てて、元気に育ててほしいという願いの象徴。熊手は、子や孫が七徳を自分の方へかき寄せられるようにとの、祖父母の気持ちを表したということです。



宮前家で実際に七五三の時に使った帯や紐、扇、印籠も！

**宮前** 昔は医療が未発達なこともあり子どもの死亡率が高かったため、「7歳までは神の子」と言われ、7歳未満の子はまだ神に属するものとされ、神がその運命を決めると考えられていたそうです。

**奥山** 神の子と言われていたのですね。

**宮前** そこで数々の儀礼を行うことで、子どもの無事な成長を祈ったと言います。そして7歳のお祝いは、その不安定な時期を乗り越えた節目の儀礼であったため、特に7歳の祝いを重視する地方が多かったようです。

**奥山** 7歳が重視されていたとは知りませんでした。

**宮前** 改めてそんな袴着姿や着物姿の子どもたちを見ると、本当によくここまで無事に育ってくれたと感じますね。

**奥山** 本当ですね。

**宮前** 季節だけでなく、人生の節目を大事にするのは日本人らしい習慣ですね。私自身も子どもの頃の、七五三のお祝いをしてもらった記憶がよみがえり、両親をはじめ本当に多くの人に見守られ、数々の通過儀礼、お祝い事を重ね、今に至っていることを感じます。生きていく中で、こうした節目によって、感謝や祈りの機会を頂いていますが、自分の通過儀礼はもちろん、家族や親族の通過儀礼を通して、そんな気持ちを思い出させてくれるという意味では、このような年中行事や通過儀礼など、次世代へとしっかり繋いでいきたいものだと改めて実感しています。

**奥山** 子どもの成長をお祝いできるのは、親としたり、きっと嬉しいことなのだろうと、大人になってしみじみ感じることです。

**宮前** 室礼の先生から以前、1年の前半と後半を盆と正月で分けるというお話がありました。

**奥山** それはどういうことでしょうか？

**宮前** お年寄り長寿を願う「重陽の節供」は、1年の後半の行事ですが、「桃の節供」や「端午の節供」など、子どものお祝いの行事は1年の前半に入ってくるということです。

**奥山** なるほど！言われてみるとそうですね。

**宮前** そうなってくると、「七五三も子どもの行事ですが、なぜ秋（後半）に？」と疑問が湧いてきます。

**奥山** 確かに、それはどうしてなのでしょう？

**宮前** 七五三は、徳川家がつくったようなものであり、文化の発生場所が違うということでした。



「南瓜」は蔓（つる）ものということで、生命力が強く途切れずに蔓を伸ばしていく「蔓は万代に続く」の習性から「繁栄・長寿・繋がり」などの意味で。

## ●過去のバックナンバー

### 第138号

職域別見守る保育セミナー①

### 第139号

職域別見守る保育セミナー②

### 第140号

職域別見守る保育セミナー③

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

奥山 七五三は徳川家と関連していたんですね。

宮前 徳川家の後の五代将軍の綱吉が、幼少時代体が弱かったそうで、健康を祈って始まったと言われているそうです。実際に、七五三は五節供になっていませんね。（※五節供：七草、桃、端午、七夕、重陽の節句）自然界の巡りの中でうまれた行事「五節供」。前半が子どもで、後半が大人の行事とは、まさに、自然の巡りと人間の一生は「同じ」ということなのですね。自然界の中に四季があり、循環していて、その中で私たちも生きていくということを大事に味わいながら、そんな自然の巡りにあらがわずに、年を重ねていきたいものです。

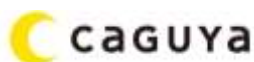
奥山 なるほど、今のお話を聞いてから室礼を見させて頂くと、盛り物ひとつとっても、様々な意味が込められること考えさせられます。

宮前 そうですね。七五三は、「子どものための行事」ということを感じますが、室礼をしていると、自分がこうして無事に大人になり、元気に過ごせることに対して、ふと、自分を育ててくれた両親への感謝の気持ちが湧いてきます。自然とこんな気持ちにさせてもらえる室礼。やっぱり、大事にしていきたいと、改めて感じています。

奥山 大人になってから、自分の両親がどんな想いで七五三を迎えたのか、今度聞いてみたいものです。また、千歳飴を頂きながら他のクルーの七五三の話も聞いてみたいですね！

宮前 それぞれの思い出を聞けるのも楽しそうですね！

奥山 今回は明治神宮でのインタビューということで、いつもと違った環境で新鮮な気持ちでお話を聞かせて頂きました。七五三で参拝されたご家族にお会いすることもでき、ご家族に想いを馳せるのも素敵な時間となりました。今回もインタビューありがとうございました。



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、  
QRコードからお願いします。